

## 霜月を迎えて

分所長 高木 敏彦

最近、朝夕の冷え込みが厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。これから紅葉の美しい季節となつてきます。開祖大祭に参拝すると、梅松苑の美しい神苑が私たちを迎えてくれますので、参拝が楽しみです。

今月の大祭時に、来年度の更生奉仕金の申込書をお渡します。来年度も引き続き申し込みをお願いします。また、節分大祭に向けて、お人型の用紙等も準備していますので、よろしく願います。

## 苦しい時には拝むこと

## 出口 直日

わたくしは、いろんな人に会って、にんげんというものは誰でも、それぞれに問題を背負わされているのだとおもいました。一生のうちには、どうにもならないような分厚い壁につきあたりますが、へいぜいの時でもその人にとっては、なかなか問題になるものを抱いて生きていられるものでしょう。「このことは、ものごとを気にする、しないとは別に、人間の背負っている宿命のよくなものではないでしょうか。けれどもこれは、少しも、人間を本質的に暗くするものではないはずで、むしろ、これあることよって、人間は磨かれ育てられ、より安定した明るさを頂けるように思います。私もそのはんちゆうにある

もので、さまざま問題をかかえながら、一生けんめいに神様を拝ましていただき、神さまを拝ましてもらっていますと、不思議と安心した、明るい気持ちになりました。有難いことに、神前に坐るまでは、胸のあたりに、もやもやしていたものが、神さまを拝んでいるうちに、いつの間にかスーッと消えて、胸の辺りが澄んできました。そして、心にゆとりができました。

ただ神さまを拝んだだけでは、という方もありますが、やはり先ず拝ましていただくことだと思えます。そして心にゆとりをもち、人間的に解決しなければならぬものをよく見きわめて、その上で解決に努力していくことでしょうか。こうしたところに、わたくしたちの人生にどうしても宗教がなければならぬものがあるとおもいます。信仰を持つていない人と、信仰を持つている人との根本的なちがいが、そうした日常に、はつきりしてくるとおもわれます。

信仰をしている人が朝夕の礼拝にはげみ、それを欠かすことがあれば気持ちが落ちつかないという精進が、信仰の第一歩であるとおもいます。  
〈寸葉集より〉

## 主な行事予定

11月5日(日)

開祖大祭 綾部梅松苑

11月12日(日) 午前10時半より

碧南分所秋季大祭・合同慰霊祭  
記念講話 前田茂太特派宣伝使

11月19日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭

12月10日(日)

少年冬季学級 三河本苑にて

12月10日(日) 午後1時半より

碧南分所月次祭 担当第3班

12月17日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭・全体会議

12月24日(日)

万祥殿献勞奉仕

## 11月の誕生者

おめでとうございます！

杉浦光和 1日 市古香名子 2日 粟津宏美  
4日 藤浦直仁 13日 神谷亮一郎 14日 粟  
津夕姫子 15日 杉浦剛 16日 榊原 遼 1  
7日 蒲生知典 18日 縦山満里子 20日 江  
坂芳子 27日 安藤かなめ 28日 市古真理  
子 29日 小笠原愛美 30日